

2018年9月12日

小金井市教育委員会生涯学習課 様

小金井市環境政策課 様

( 写 東京都教育庁 地域教育支援部管理課)

( 写 東京都水道局 経理部管理課)

小金井玉川上水の自然を守る会

代表 加藤嘉六

<https://kodama201803.jimdo.com>

## 玉川上水・小金井桜整備活用実施計画による樹木伐採への要望書

「世界の異常高温 2022 年まで続く」、今年の猛暑にも関係する衝撃的な最新予測研究論文が 14 日に発表されたという記事がありました (8 月 15 日 A F P)。英科学誌ネイチャーに掲載されたこの論文は「人為的な地球温暖化と自然要因による地球表面温度の上昇の相乗効果により、今後 5 年間は異常な高気温が続くと予測される。気候変動といわゆる自然変動のダブルパンチは、海洋表層水での『異常な温暖化現象』の発生確率を 2 倍以上高め、ハリケーンや台風の危険な温床を形成する。人為的変動 (主に 20 世紀に大気中に放出された、多量の温室効果ガス (主に二酸化炭素) に起因する、人為的な気候変動) が生じており、今日では自然変動を圧倒する恐れもある。」と指摘しています。

温暖化を進行させている人為的森林破壊が生物の生息を破壊して、生物多様性を急速に減少させています。つまり、温暖化は生物多様性と密接に結びついているのです。

私たちは昨年に引き続き今夏も、玉川上水の遊歩道の地表温度調査をしました。皆伐地区 (約 60℃) と未伐採地区 (約 30℃) とでは、最も温度差のある場所で約 2 倍の差がありました。測定をして感じたのは、未伐採地区のひんやりと心地よい涼しさと、伐採地区のジリジリと焼けつくような暑さでした。温暖化が進むことにより、消えていく生物もあります。8 月に植物調査をした中

では補植された名勝小金井桜が 4 本枯死していました。これは、猛暑・水不足によると思われます。皆伐された場所には外来種がはびこり景観も悪く、処理作業も更に必要になります。

4 月 22 日に開催した「玉川上水と生物多様性—玉川上水の宝物を未来につなぐ—」の講演の中で、坂田昌子さん（国連生物多様性の 10 年市民ネットワーク代表）は「身近な自然が大切、地域の人に関わり方が大切である。希少種だけを守るのはダメ。いろんなグリーンがあるのが良い。また、生物がいないところでは人間は生きていけない。」と語っています。

小金井市には「小金井市緑の基本計画」が策定されています。その中で玉川上水については、名勝小金井桜の再生が前面に出されています。しかしこの中に「緑のネットワーク」という言葉があります。また、その後策定された「小金井市第 2 次環境基本計画」には、自然環境の一体的保全・水と緑のネットワーク構想・生物多様性の保全・ヒートアイランド現象の防止などの文言が出てきます。

更に「小金井市地球温暖化対策地域推進計画」には、『緑化の推進は、夏場の日差しを遮ることや地下水及び湧水の保全にもつながり、ヒートアイランド現象の抑制による省エネ効果を生み出すことから重要と言えます。』とあります。私たち「小金井玉川上水の自然を守る会」は玉川上水の自然を次世代に引き継ぐことを目的に 2017 年 2 月に発足しました。私たちは桜だけでなく、他の樹木も共存できるような玉川上水の管理の仕方を求めています。

小金井市でも「地球温暖化対策や生物多様性保全に配慮した水と緑のネットワークづくり」を推進し、玉川上水・小金井桜整備活用実施計画による樹木伐採への配慮を要望致します。